

令和6年10月4日
青森市教育委員会事務局文化遺産課長

希少魚シナイモツゴの繁殖に取り組む青森中央高生が、稚魚を放流します！

シナイモツゴは、全国的に絶滅が危惧される希少な淡水魚であり、青森市では「又八沼に生息するシナイモツゴ」として、市の文化財（天然記念物）に指定しています。

このたび、又八沼から採集したシナイモツゴの保護に取り組む青森県立青森中央高等学校の生徒たちが、同校ビオトープで繁殖を試み、今春産卵・孵化した稚魚を又八沼に放流しますので、取材・報道をお願いします。

日時

令和6年10月10日（木） 午後1時30分～3時00分

場所

又八沼（青森市大字羽白字野木和）

内容

青森県立青森中央高等学校では、現在又八沼から採集したシナイモツゴ等の繁殖に取り組んでいます。

このたび、令和6年春に産卵、孵化したシナイモツゴ及びキタノメダカの稚魚各100匹程度を、採集地である又八沼に放流することで、地域の自然環境について学習します。

※「又八沼に生息するシナイモツゴ」保護の取組については、別紙をご覧ください。

出席者

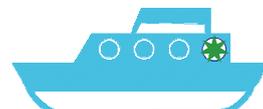
青森県立青森中央高等学校 教諭 ^{たかや}高谷 ^{さとる}悟 様

青森県立青森中央高等学校 3年生 5名（予定）

弘前大学名誉教授、弘前医療福祉大学講師 ^{さわら}佐原 ^{ゆうじ}雄二 様（動物生態学）

駐車場について

又八沼周辺は手狭なため、事故防止の観点から関係者以外の車両は進入できません。駐車場については、下記担当までお問合せください。



「又八沼に生息するシナイモツゴ」保護の取組

1 又八沼の水抜きについて

令和2年、シナイモツゴの生息地である又八沼（青森市大字羽白字野木和）から、本県には自然分布しない（国内外来種と呼ばれる）モツゴが採集されました。

シナイモツゴの生息地にモツゴが混入すると、両者の交雑により、シナイモツゴは数を減らし、最終的に絶滅することが知られているため、令和5年8月には、淡水魚の専門家である佐原^{さわら} 雄^{ゆうじ}二様を中心とした関係者により、沼の水抜きが行われました。

水抜きでは、シナイモツゴをはじめとする在来種を採集し、沼の水位が回復した令和5年秋には、シナイモツゴ34匹（沼の水抜きにより採集した27匹、浅虫水族館での繁殖により生まれた7匹）、及びキタノメダカ等在来種を又八沼に放流しています。

2 シナイモツゴの繁殖について

青森県立青森中央高等学校では、又八沼に由来するシナイモツゴ26匹（生息調査により採集した1匹、沼の水抜きにより採集した5匹、しらかば保育園で飼育していた13匹、浅虫水族館での繁殖により生まれた7匹）を同校ビオトープに放流して繁殖に取り組み、令和6年春には多数の産卵が確認されました。このたび、孵化したシナイモツゴの稚魚、及び同時に繁殖を試みたキタノメダカの稚魚を放流することで、又八沼でのシナイモツゴ等在来種の回復に貢献します。

また、今年度、同校教諭^{たかや} 高谷^{さとる} 悟様を中心に行った又八沼での生息調査では、当歳魚を含むシナイモツゴ7匹が確認され、稚魚も目視されていることから、又八沼では、昨年放流した個体が無事に越冬し、今春繁殖・孵化するなど、順調に回復していることがうかがえます。

とりわけ、生息調査において、モツゴが確認されなかったことは、令和5年に行った沼の水抜きの成果と言えます。